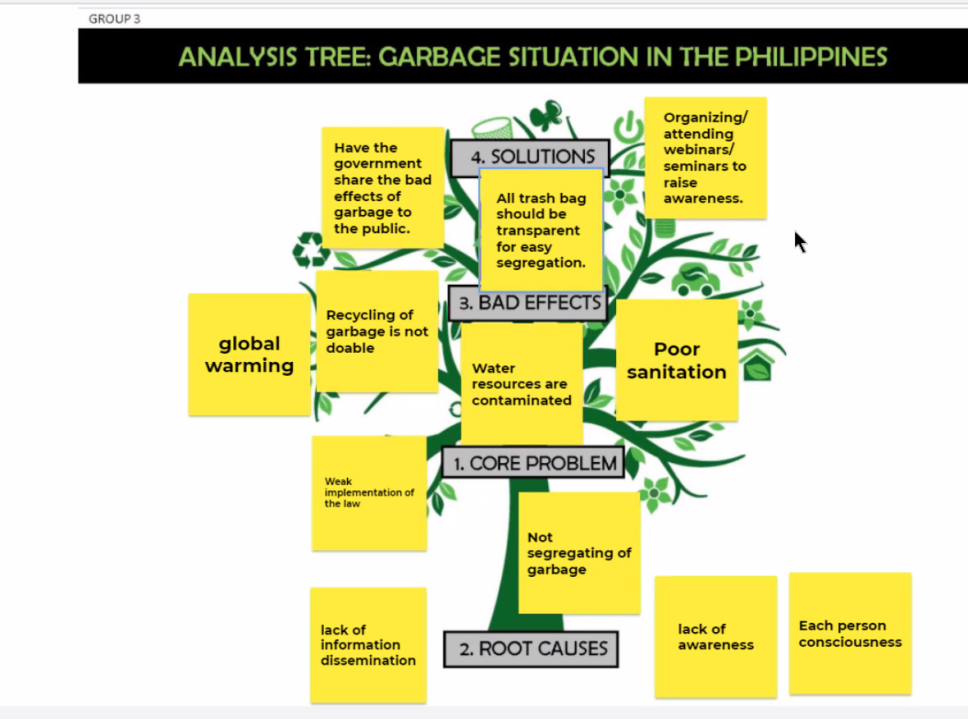
羽ばたけ! TUT2021 報告書概要

１　系　（Ｂ）　４　年　**氏名**　**長津　縁**

参加プログラム名	2021 年：SDGs を英語で学ぶ、オンライン学修プログラム
研修期間	2021　年　8　月　18　日　～ 2021 年　8　月　25　日
研修先機関名・ 所在国	NPO 法人 LOOB JAPAN　・日本
研修の概要 （研修テーマや課題、目標・目的や主な研修活動内容、研修で達成したこと等を簡潔にまとめて書いてください。）	今回参加した研修はフィリピン現地の方との交流を通して SDGs の基礎知識を身につけながらフィリピンの現状を知ることが主な目的である。 毎回 SDGｓの 17 の項目の中からいくつかピックアップしその内容について学習をする。各回ごとの流れとしてはその回の項目の基礎知識のレクチャーが日本語で行われる。ここで日本とフィリピンの現状、行われている取り組みも簡単に教わる。その後、フィリピンの現地の方から英語でのレクチャーが行われる。２つのレクチャーが終了した後にブレイクアウトルームにてグループセッションが行われる。メンバーは日本人４人、フィリピン人が２～3 人のメンバーで行われ、まず事前に与えられた簡単な３つの質問にそれぞれが答える。その後、当日与えられる課題をメンバーで協力して行う。 研修を通して SDGs の基礎知識を学びながら、異なる文化をもつ方の意見や考えを聞き自分の意見や日本に対して今までとは異なる視点を持つことがきた。研修後に SDGs に関するイベントにファシリテーターとして参加するため今回得た知識、経験を活かしていきたい。
活動写真 １枚 （修了証の写真でも可）	グループ課題で使用した図　フィリピンのゴミ問題に関する解決策を図を用いてブレインストーミングを行った。 

研修内容

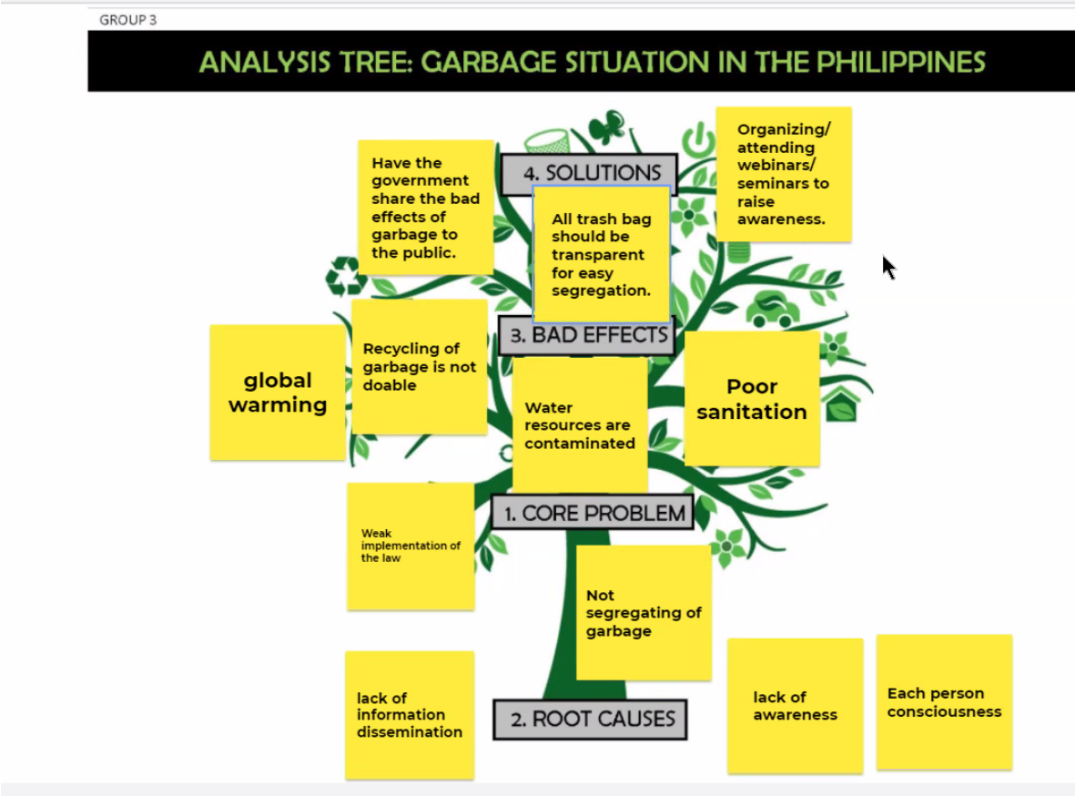
① 参加の目的や動機

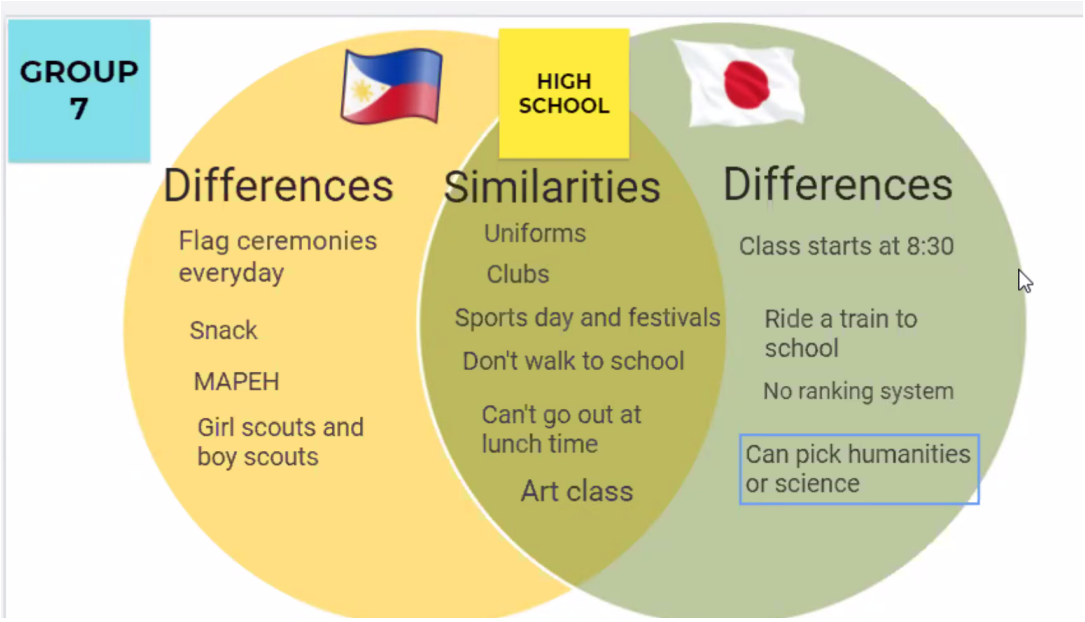
９月に行われる福島高専主催の SDGs に関するイベントに参加することがこの研修に参加することを決意した一番のきっかけである。SDGs の名前は様々な場所で聞いてきたがその内容を詳しく調べることはなかった。しかしイベントに参加するにあたり、いい機会だと考え研修に参加し勉強しようと決意した。

また、今回の研修はフィリピンの現地の方との交流も含まれており物事をグローバルな視点で考えるのによい経験にもなるのではないかと考えた。

② 研修内容

１時間半の研修が６回行われた。毎回 SDGｓの 17 の項目の中からいくつかピックアップしその内容について学習をする。各回の流れとしてはその回の項目の基礎知識のレクチャーが日本語で行われる。ここで日本とフィリピンの現状、行われている取り組みも簡単に教わる。その後、フィリピンの現地の方から英語でのレクチャーが行われる。２つのレクチャーが終了した後にブレイクアウトルームにてグループセッションが行われる。メンバーは日本人４人、フィリピン人が２～3 人のメンバーで行われ、まず事前に与えられた簡単な３つの質問にそれぞれが答える。その後、当日与えられる課題をメンバーで協力して行う。課題の内容は日本とフィリピンの現状を比較するために日本人とフィリピン人が交互にその地域の現状を答えていくものや、フィリピンのゴミ問題を解決するためにみんなでアイデアを出すなどブレインストーミング形式のものが多かった。毎回の研修終了後、参加者 LINE グループで感想や学んだことをシェアし、他のグループの内容や他の参参加者の考え方等も知ることが可能だった。





③　研修の成果、研修で獲得したもの、当初設定した行動目標の達成度、問題点

今回の研修を通して感じたことは、違う視点や異なる文化から学ぶことはやはり多いということである。日本の SDGs 達成度はフィリピンと比較してかなり高い。研修前はなぜフィリピン？他の日本より達成度の高い国の方との交流のほうが有意義になるのではないかと考えていた。しかし、実際の研修を通して自分の考え方は大きく間違えていたことに気づいた。

確かに日本の達成度ランキングはフィリピンと比較して高いかもしれない。しかし、フィリピンからも学ぶことは多くある。SDGs の 3 番に該当することであるが、日本は世界幸福度ランキングでフィリピンとほとんど同じ位置につけている。このランキングは主観的幸福度とＧＤＰや平均寿命等の客観的幸福度の 2 つの観点に分けることができる。ご存じの通り日本は平均寿命や GDP のランキングは高い。しかし、主観的幸福度が低いため６２位という結果となっている。一方でフィリピンは主観的幸福度が高いため GDP 等で劣っていても日本と大きな差がないのである。実際、グループセッションの中で現地の方は「健康で入れさえすれば幸せ」や常に笑顔が絶えないなど、主観的幸福度を感じることができた。また、５番のジェンダー平等に関しても学ぶことは多い。フィリピンのジェンダーギャップ指数は世界的に見て 17 位とアジアの中でも１位である。

以上に示したように例え全体のランキングで上回っているとはいえ学ぶことは多いと感じた。加えて SDGs のそれぞれの項目は相互に関係しあっている。例えば質の高い教育を受けるためにはそれなりの金銭的補助が必要であるように 1 番と 4 番は関係性がある。これらのことからすべての SDGｓを達成するために日本が苦手なことを他国の活動から学ぶことも重要である。研修前に“Think globally, act locally”を目指すと述べたがそれを実現するためのきっかけをつかむことができたと考える。

④　今後の目標、課題、当初設定した「研修後に実践する行動目標」の見直し

研修後に参加予定である JSTS2021 では今回得た知識、経験を活かせると思う。しかし、先にも述べて用にそれぞれの達成目標は互いに関連がある。そのため今回の研修のみでは勉強不足であると考える。そのため自身での学習をイベント当日までに進めたい。

⑤　その他感想など

オンライン上ではあったが実際に現地の方との交流を通してフィリピンの現状をより深く知ることができたと考える。特に研修を通して一番感じたのはネット環境の問題である。回線不良でフィリピン現地の方が会話に参加できないこと、イベントの進行が止まることが多々あった。現地の方もネットにつなぐために木に登ることもあると話していて驚いた。コロナの影響でオンラインの需要が高まる中、SDGs の各目標達成のためにも発展途上国ではネット環境等のインフラ整備も求められるのではないかと感じた。